

## テーマ

# 自己愛(ナルシズム)から見た現代 日本小説・アニメ・など

## 適用 分野

現代社会の自己愛の問題を、90年代以降の現代文学やサブカルチャーの作品を通して解明する。



## 研究 名称

前エディス期の精神内界モデルと比較した文学・芸術の研究、特に村上春樹・小野不由美など

## 氏名 所属

田中雅史 教授  
文学部 日本語日本文学科

## 内容

### ●特徴

フロイト以降の精神分析理論の展開のなかでも、対象関係論や自己心理学のモデルを文学などの虚構作品の分析に応用する、まだあまり見られない研究である。作品中の幻想的要素に焦点を当て、それが精神分析的発達モデルの「母親からの分離」の表現であることを解明していく。このような研究を行うことで、文学・芸術の創作過程を従来とは違った観点から見直し、それを現代の若者の心の問題とつなげて理解できる可能性がある。

### ●研究内容

村上春樹・小野不由美・宮部みゆきなどの現代小説を取り上げて、その自己愛的な特徴と作者の示す解決の方向について考える。対象関係論のPs↔Dモデルやフロイトの一時同一化論に見られるナルシズムをラカン派を経た目で見直したクリステヴァの「想像的な父」モデルなどを使って解釈する。

そこには養育者、特に母親からの分離という、発達心理学でよく取り上げられる危機的状況とよく似たものが見られる。村上春樹・小野不由美・宮部みゆきなどの現代の作家はこの無意識的な現象を意識的に描こうとしている。同時代のアニメ・漫画にも同じような特徴が見られる。こうした作品へのアプローチは、現代の若者の心の変化について理解を深める手がかりとなりうる。

## キーワード

ナルシズム（自己愛）、村上春樹、小野不由美、クリステヴァ、ビオン

## 連携方法

■ 講演   □ 研修   □ 研究相談   □ 学術調査   ■ コメント   □ 共同研究